

# 第3回四国中央市障害児等福祉審議会会議録

日時 平成27年12月24日(木) 15:00～

場所 消防防災センター3階大会議室

## 出席者名(敬称略)

### 委員

藤枝俊之、山内紀子、東誠、井上 俊正、井原佳代、福田裕史、由良芳雄  
井上陽子、立花清香、森川恵里、高橋秀美

### 事務局

石川晋二、戸田克明、石川光伸、曾我部公恵、篠原由歌、近藤心平、西村麻裕

## 1. 開会

委員長から開会を宣言

## 2. 議事

### (1) 第2回審議会会議録の確認

事務局より説明(内容省略)し、出席委員全員の承認を得た。

副委員長	グループ討議の内容をどう形にしていくのか。計画に反映するストーリーが見えない。
事務局	出来る限り委員のみなさんの意見を反映したい。今後整理していく作業が必要となると考えている。
副委員長	本市の現在の支援体制をたたき台にして協議すれば、スムーズに出来るのではないか。
委員長	これから審議するアンケートも意見を広く集約できるよう進めていきたい。
立花委員	親の会「ピース・ほわいと」で募ったニーズの報告。 ・特別支援学校が必要(意見多数) ・放課後デイサービスの充実(意見多数)(放課後の居場所がない) ・放課後デイサービス以外の行き場がほしい ・障害児・者のショートステイの施設がほしい ・親もまだまだ子供のことを知りつくしていないので学習の場がほしい (自閉症スペクトラムサポーターや自閉症スペクトラム支援士の資格取得に向けた勉強がしたい)

- ・個別療育 ST、OT、心理士の離職しない待遇を確保してほしい  
(スタッフが慢性的に不足している。待機や療育打ち切りが発生)
- ・高等技術専門学校(発達障害対象)がほしい  
(働くための専門技術を習得できるように)
- ・救急・災害時に障害者が対応できるシステムづくりをしてほしい  
(コミュニケーションボードの採用やガイドラインの作成、ヘルプカード活用)
- ・気軽に相談できる場がほしい

## (2) アンケートについて

事務局より説明(内容省略)

### 第1部

「回答者」について

- ・原則として保護者に回答してもらうことが明確に分かるように表記する。
- ・対象者は20歳未満とする。

「問1-4 現在所属している機関」について

- ・市外に頼っているサービスをいかに市内に持ってくるのかを知る基礎資料となるので、市内か市外かも分かるように選択肢を増やす。

### 第2部 「気づき」

「問2-1 について」

- ・専門機関・所属機関・セルフチェック等、だれが読んでもわかる表現(定期的な健診 1歳6か月健診・3歳児健診等とするなど)とする。
- ・保護者・家庭・地域・行政・専門機関の気づき。心配なことを相談できる場所、行政サービスの中だけではない気づきの機会についても載せる。
- ・時間をかけて揺れながら気づくことが多いため、いつ・どうやって気づいたか、誰に相談したか、どういう経緯で療育に繋がったのか、実態を聞いたうえで自由記述欄を設ける。

### 第3部 「相談」

- ・具体的に「誰」に相談したのか、どのような機会・場所（センター・学校・通園ホーム・保護者会・懇親会等）に相談したのかを分かりやすい表現とする。
- ・何を聞きたいのかを明確にし、作成側と答える側にずれが生じないようにする。
- ・相談支援専門員なども含め、現在の体制がどうなっているのかを明記する。

### 第4部 「保育・教育の場での支援について」

「問 4-1 について」

- ・次のような指摘があった。

現状ではアの選択が多いと見込まれるが、それは支援学校がないからであり、特別支援クラスがよいというわけではなく、ニーズとして支援学校が要らないと判断されると困る。

支援学校が良いか支援学級がよいかを保護者が判断するのは難しい。

理想は集団の中で支援を受けながら過ごすのが良いに決まっているが、現実には難しい子がいる。最良の方法は、子ども一人ひとりについて、何がその子に必要なかを専門家のアドバイスをもとに適切な選択ができること。

発達の重症度・個別の状況によって支援・配慮に必要な人数は決まっており、集団の中で過ごしたくても、クラスに先生が5人も10人も入るのは現実的でない。理想と現実の中で設問に正しく答えるのは難しいのではないかと。

現在の年齢にかかわらずではなく、「今のお子さんにとって最良なもの」を問う方が良いのではないかと。

現在の所属機関での過ごし方についての設問があったら良いのではないかと。

教育環境がどうあるべきかについて聞くのが良い。

- ・よって、上記を踏まえ一から設問を見直す。

### 第5部 「福祉サービスについて」

- ・福祉サービスを知らない人もいるため、利用していない理由を尋ね、なぜ使わないのか、どうすれば利用するのかを探る。
- ・福祉サービス一覧には漏れがあるため、追記するか、「等」でまとめる。

### 第6部 「就労・地域生活について」

- ・現状ではどういう過ごした方をしているのかを問う。

## 第7部 「ご家族への支援について」

- ・「保護者が学習する機会」を選択肢に設ける。
- ・家族・周囲の理解はどれにあたるのかを明確にする。

## 第8部 「その他の環境について」

- ・「ソフト面でのやさしい地域環境づくり」を選択肢に設ける。
- ・発達障害・精神疾患など、表面上わかりにくい障害に対するニーズを拾う。

## その他

- ・「特にない」という記述を削除し、「その他」を設け記述してもらう。
- ・満足度は全員に聞く。
- ・選択数の基準を設ける。
- ・回収率をあげる為、回答することで福祉向上につながる事が分かるよう記述する。
- ・結果の公表方法についても記載しておく。

## (3) 子ども若者発達支援センターについて

事務局より説明（内容省略）

由良委員	放課後デイサービスの対象者拡大は何人を予定しているのか。
事務局	指定基準をふまえて見込みを推計しているので、次回報告する。
森川委員	就労・社会適応支援について、ぼれぼれウインカルでは期間など決まりがあるがセンターはどうなるのか。
事務局	ほかの就労支援事業所とかぶらない、生活していくうえで必要な基礎的な訓練を考えている。具体的な内容については今後皆さんの意見をききながら考えていきたい。
副委員長	書庫の使い方はどうなっているのか。

事務局

書庫については職員の書類を保管するところとなる。

図書やパソコンの使用場所、ネットワークはどうなっているのか。

図書については、玄関の待合コーナーに図書コーナーと椅子を設ける予定。利用者用パソコンについては、多目的プレイルームで利用することを考えている。利用者に供するネットワークは、別に無線 LAN を設ける予定である。

#### (4) その他について

事務局から、あったか子育てセミナーについての案内。

次回の審議会を1月28日(木)15:00～開催することに決定した。

井原委員より四国羅針盤(1/8放送分)の情報提供

### 3. 閉会

副委員長より閉会の挨拶

---